



川井クリニックニュース

平成22年第4号

2010年10月14日発行



院での糖尿病に関する検査について

当院では、通院されている皆様の病状に合わせた治療を行うことを常々心掛けています。ですが、各種合併症の進行状態を含め病状把握には種々の検査が必要です。そのため、当院では年間検査計画に従い、患者さん一人一人に抜けのない検査を行うことを心掛けている。そこで、2ヶ月に1度の通院間隔の方では、来院時の検査が多くなります。行っている検査は、糖尿病の原因に関する検査、生活習慣を知るための肝機能検査、血中脂質・尿酸濃度測定、糖尿病の合併症を知るための検査（尿中アルブミン測定、眼底カメラ、神経機能検査、自律神経機能検査）、動脈硬化の進行度を知るための検査（心電図、頸動脈肥厚度測定）、全身の健康状態を知るための血液検査や胸部レントゲン検査等です。これらは、日本糖尿病学会からも必要な検査として推奨されている検査です。癌の検査は定期的には行っていませんので、心配な方は癌検診やドックの受診をお勧めします。なお、肝臓癌・前立腺癌・肺臓癌等の腫瘍マーカーや大腸癌検査としての便潜血検査の実施は可能ですので、ご相談下さい。



血糖とHbA1cは血圧を測って降圧薬の内容・量を決めるのと同様、糖尿病薬の調節には欠かせないものです。高血圧、高コレステロール血症、痛風等の薬は一旦処方量が決まると安定した数値となりますが、糖尿病薬は食事や運動（特に食事）の影響を受けやすく、HbA1cが安定している方以外は1ヶ月に1度の検査が望されます。また、同じ採血検査でも、検査の項目により10～12時間の絶食後の採血を必要とする検査（主に空腹時血糖、中性脂肪、インスリン抵抗性を調べる時）や食後2～3時間の採血を必要とする検査（主に食事に際しての臍臓からのインスリン分泌能力を調べる検査）等があります。正しい病状把握が治療方針を決めるには必要ですので、次回採血時の食事時間を指示された場合には、ご協力をお願い致します。

空腹時採血を指示された方の場合、9時前後の予約時間を希望される方が多く、また採血後すぐに朝食をとる方もいるようですが、たまには朝食を抜いたり、朝食と昼食を合わせて11時頃に食事をとってみてはいかがでしょうか。糖尿病の食事療法においては、食事のカロリー量、栄養組成が大切ですが、食べるタイミングも重要です。その点からは決まった時間に朝食をとっている方にとっては朝食が遅れたり、抜くことは苦痛かもしれません、年に何回かは空腹感を楽しむ余裕を持って下さい。前日の夜の薬やインスリンで低血糖が心配な方には、採血後の数値をみて“あめ”や“ポカリスエット”等で対処することをお伝えしているので御安心下さい。尚、朝食時に薬を服用している方では、食事の際のインスリン分泌を増強するための薬（アマリール・グリミクロン・オイグルコン・ダオニール・グルファスト）は服用せず、インスリン注射もしないで来院して下さい。また、消化抑制薬（グルコバイ・ベイスン・セイブル）も食事をしない場合は服用する必要はありません。一方、糖尿病薬でもインスリンの作用を増強する薬（アクトス・ジベトス）は服用して来院して下さい。朝の降圧薬も服用して問題ありません。他の種々の薬剤を朝食時に服用している場合も、殆どの薬は朝食をとらずに服用することは可能ですが、ご相談下さい。しかし、胃カメラやバリウムによる胃造影検査の際には薬が検査を妨害する場合がありますので服用することはできません。



以上、当院で行っている糖尿病関連の検査に関して述べてみました。皆様方の検査についての理解が深まり、検査にご協力頂ければ幸いです。

(院長 川井紘一)

予約取得方法の変更について

2009年1月に新たな予約システムを導入して、早1年半が過ぎました。現在のシステムを始めてから、待ち時間の短縮や、予約人数の管理などが順調に行えるようになってきましたが、通院患者さんの増加に伴い、日時の指定や他病院との通院の兼ね合い、2人組・3人組での同時間通院希望など、患者さんの要望も多様化しています。出来る限りご要望に応えられるように努力してきましたが、そのために他の患者さんにご迷惑をかけてしまうことが多くなり、予約の公平性が失われています。また、出産による職員の離職等による人手不足もあり、予約受付業務の継続が困難になりました。

そこで**2010年11月より窓口での対応を廃止します。**そのため、診察前の予約取得は出来なくなりますので



ご了承ください。皆様には**診察終了後に予約室に移動頂き、ご自身でタッチパネルを操作**して頂きます。

予約室入室のご案内は致しませんので、診察終了後は必ず予約室にお入り頂き、操作をお願い致します。尚、ご希望の日時に予約取得が出来ない場合がございますが、提示された枠内での予約取得をお願いいたします。現在でも予約時間は、その時間にきっちりと診療を受けられるというものではありません。ご自身の希望とずれがあったとしても、予約時間を厳密なものとして捉えず、来院の目安程度とお考え下さい。診察終了後でしたら、電話やインターネット（携帯端末含む）でも予約の取得が可能です。

変更後の詳しい流れやタッチパネルの操作方法については、受付及び予約室周辺に告示致しますので、ご確認の程宜しくお願ひ致します。なお、操作等がうまくいかない場合にはスタッフがお手伝いしますので、お気軽に声をかけてください。

以上、予約方法の変更に伴い最初のうちは皆様にはなにかとご迷惑をおかけすることが予測されますが、状況に合わせて対処致しますので、ご理解ご協力の程をお願いいたします。

職員旅行の思い出

9月19日から9月23日まで中国の九寨溝、黄龍、成都、北京へ行ってきました。

九寨溝は中国四川省北部の山奥に位置し、世界遺産にも登録されています。原生林の中に大小さまざまな湖や滝や泉などが沢山分布しており、初日は天気も良かったため、その水の輝きと美しさに圧倒されました。2日目の**黄龍**は岷山脈の端の一部に位置する峡谷であり全長は7.5kmあります。今回はそのうちの風景区として指定されている3.5kmを散策してきました。山頂まではロープウェイが開通しており、山道には木製の遊歩道がきちんと整備されています。鮮やかなエメラルドグリーンの水には心を奪われ、標高約3400mという空気の薄さによる疲れも吹き飛ぶ美しさでした。大自然とエメラルドグリーンの水が織り成す世界は、まさに秘境とい

う感じで、心から感激しました。



翌日は**成都**へ移動し、熊猫(パンダ)繁育研究基地と武侯祠博物館（三国志で有名な諸葛孔明の祠堂）を見学しました。研究基地と聞くと何やら物騒に聞こえますが、広大な敷地を本来の生息地に似せて造ってあり、自然に近い環境で年代に合わせてパンダが飼育されているので、泥んこになって遊んでいるパンダや葉っぱを探って食べているパンダ、木の上で寝ている姿等を身近に見ることができる素晴らしい施設です。特に幼少期の3頭のパンダのじゃれあいがあまりにも可愛らしくて、見ている人が皆笑顔になっていることが印象的でした。



初日に行った九寨溝に熊猫海という湖があります。以前はここで水を飲むパンダが目撃されたのでこう呼ばれるようになったとか…水が澄んでいて湖面が鏡のようなきれいな場所でした。美しい景観と野生の動物のためにも自然を守ることの大切さを痛感しました。

最終日の、**北京**は2008年にオリンピックも開催されたこともあり、今まさに発展目覚しく、これぞ中国と言った、エネルギーとパワーに満ち溢れていました。今回の旅行では中国に居ることを忘れてしまうような美しい自然と、まさに中国といったパワフルな面との両面を感じることが出来ました。